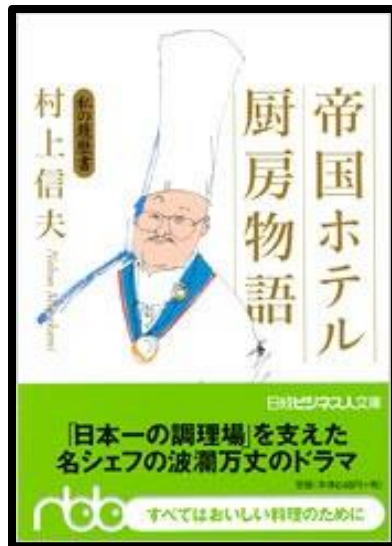


教職員 おすすすめ本



帝国ホテル厨房物語

村上信夫・日本経済新聞社

「一流になるには一流の努力が必要」
これは、この本から私が学んだ
ことです。

この本は、帝国ホテルの料理長の自伝です。どんな人も才能だけではなく、努力をして一流になっています。自分にできることを人の期待以上に全力で取り組む。こんな姿は必ず人の心を動かします。他人と過去は変えられませんが、自分と未来は変えられます。

頑張れ、児玉高生！！

【芸術科・書道 桑原】



としまかん
にあります

えんとつ町のプペル

にしにあきひろ・幻冬舎

映画で観た人も多くいるかと思いますが、この本は絵本バージョン、プラス英語でも書かれているものです。挿絵がとにかく良い！というのが私の感想です。

普段あまり本を読まない人もまずは絵を鑑賞して物語を想像するのも良いと思います。余力があれば、英文を見てみると世界がさらに広がります。(学校の図書館にあります)

【英語科 高柳】

No
Image

としまかん
にあります

恩讐の彼方に

菊池寛・青空文庫※

「罪」と「罰」、「善」と「悪」。この世に必ず生まれる二律背反をテーマに、『文芸春秋』の生みの親である菊池寛によって書かれた文学作品です。

主人公の市九郎が犯した罪を、実之助はどのように思っていたのか。そして、その後の市九郎の生き様をどのように感じ取ったのか。最後に実之助はなぜ涙したのか。

様々な描写や人物の感情を思い起こしていると、作品を読み終えてからもなお黙然と物思いにふけてしまいます。

「罪」と「罰」、そして「復讐の価値」、「これからの自分の生き方・考え方」について考えさせられる作品です。

【機械科 坂谷】

※〈インターネットの図書館 青空文庫〉

<https://www.aozora.gr.jp/>

底本:「菊池寛 短篇と戯曲」

(文芸春秋 1988)



パスカル パンセ抄

ブレイズ・パスカル、鹿島茂・飛鳥新社

『人は考える葦である』『クレオパトラの鼻。それがもう少し低かったら、地球の表面はすっかり変わっていただろう…。』圧力の単位としても知られるパスカルの吐きを収めた

「パンセ」を抜粋した抄訳本です。

生きる上で多くの人と出会い、関わり、そして別れていきます。十人十色という言葉があるように個性も興味・関心も得意・不得意もバラバラであるわけですが、根底では皆、個々の幸せを願って行動をするものです。パスカルはその本性を暴き、人間というのはこう在るべきだと思いを馳せていたのかもしれない。

この「パンセ」は、パスカルの深い洞察と多くの示唆に富んだ一冊です。哲学に興味がある人はもちろん、自分自身の生き方や考え方に新たな視点を持ちたいと思っている人にとっても、非常に価値のある本です。ぜひ、挑戦してみてください。

【機械科 坂谷】

No
Image

としよかん
にあります

雑に作る 電子工作で 好きなものを作る近道集

石川大樹, ギャル電, 藤原麻里菜
・オライリー・ジャパン

10年くらい前までは、試作をするのもきちんと作らなければならないと思い込んでいました。もちろん設計は目的を達成できるように行いますが、実際に形にするには時間がかかり、できたものの調整を行うとさらに時間がかかります。結果、競技用ロボットを作るにしろ課題研究でものを作るにしろ、膨大な時間を消費していました。

ある時、知り合いの大学の先生のお世話で、「ファブラボ」の実態を知る機会がありました。その時、ピンの抜き差しだけで完結したり、そもそも実売されているモジュールを極力使用して可能な限り省力化したものづくりを目の当たりにし（ファブラボはそういうところという意味ではありませんが）、「あ、これでいいんだ」と肩の力が抜けました。以来、モノ作りがどんどん楽しく、面白く、「とりあえず、これで動けばOK」と作り続けました。

本書は、数年前から続くマイコンで省力化したものづくりのススメのような本です。

内容は専門書の部類でしょうが、読んでいて「これはすぐ作れるな」と想像しながら読めます。年末に読みましたが、ものづくりのヒントをいっぱいもらいました。「とりあえず、これで動くな」がいっぱいです。ものづくりに興味があっても手が出ない、という人はぜひ読んでください。

【電子機械科 中島】

No
Image

にじ

新沢としひこ・アスク・ミュージック

新沢としひこさんの「にじ」という歌を知っていますか？とても素敵な歌詞の大好きな歌です。子供に教えてもらった歌ですが、歌詞を思い浮かべるだけでとても元気になれます。

辛いことがあったとき、気持ちが落ち込んだ時、繰り返しこの歌詞を思い浮かべると次に向かうことができます。明るい歌なのに、聞いていると涙が出そうになる不思議な曲です。この本は歌詞のイメージ絵を歌詞とともに書かれた本です。歌を知っている人も、そうでない人も一度見てみてください。

【電子機械科 中島】



としよがんに
あります

たったひとつの冴えたやりかた

ジェームズ・ティプトリー・ジュニア, 浅倉
久志・早川書房

学生時代、接客業のアルバイトをしていました。あるときアルバイト先の上司に「もっと効率よく接客できるようにしたい」と相談しました。するとその上司は「この場合、効率という言葉を選ぶのは、良くない」と助言してくださいました。効率は大切だが、客・従業員・商品・製造者はあくまで業務上のカテゴリーである。心ある生き物同士がモノやサービスを介しておこなう対話なのだということをおぼえていないかな？という意味だったのでしょう。

対話を作業とみなす私の鈍さとおごりたかぶる姿勢が、効率という言葉になって現れたのです。それに気づいたとき、背筋が冷え、ひどく情けない気持ちになりました。

「あなたが思いを発するまで、わたしはじっくり待ただろうか」

「あなたが発した言葉の意味あるいは言葉にならなかった思いを、わたしはまっすぐに聴こうとしますか」

「わたしは言葉や表現を選び・言い換え、あなたに伝えつづけようとしたらどうか」

よく、自分に問いかけます。

本作の主人公であるコーディとシロベーンは、種族が異なります。しかし、危うい状況の中でも、互いの考えていること・思いを、言葉をつくして伝え、じっくり聴くことで、互いを知ろうとします。

また、この2人の伝えた言葉(情報)を、第三者は冷静かつ真摯な姿勢で聴き、受け取りました。

「めでたし、めでたし」の結末ではありませんが、登場人物たちの姿は、私にとっての戒めとなってきています。

原タイトルは「The Only Neat Thing to Do」、日本語版は1987年に刊行されました。新装・改訳版には、あとがきに著者紹介も書かれています。著者本人の生きざまもまた、とても印象深く、考えさせられます。いつかどこかで、手にとっていただければ幸いです。

【司書 高木】



星を継ぐもの

ジェイムズ・P・ホーガン、池央耿
・東京創元社

SF を読みたい！

そんな瞬間を誰しも経験すると思います。しかし、長編小説を読むときがいつもそうであるように、読みたいけど面倒くさい、読み始めても1ページで止まってしまう。この本もその例の外には無く、確かに初めの50ページくらいはあんまり面白くない。しかし、一度文面の呼吸を掴んでしまえば一気に最後まで進んでいって終わるのがおもしろくなるほどです。なので、ネタバレ有りで面白くなる
ところまで話を進めてしましましょう。

政府の研究機関に呼ばれた主人公ハントは、立体透視影置の開発者。(実は最近現実世界でこれと同じ装置が作られましたね)彼が与えられたミッションは、開くことのできない手帳の内容を、破碎せずに解読することだという。何故わざわざそのようなことに呼ばれたのかと聞けば、その手帳は月面調査中にたまたま発見されたものであるという。近くにはその持ち主と思しき宇宙服の人物の姿もあった。しかし、調べてみると

奇妙なことがわかってきた。なんとその宇宙服は、五万年前に作られたものであること。さらに奇妙なことに、その宇宙服の中には、現代のホモ・サピエンスと全く同じの遺伝情報を持つ人物が入っていたこと。この奇妙な宇宙人チャーリーの出自の謎を解くため、矛盾だらけの証拠を元に、生物学、物理学、化学、工学、天文学、数学、人文学、言語学、社会学ありとあらゆる学者が入り乱れ、議論は紛糾していく。仮定を立てては反証され、推論を進めては頓挫し、最後にたどり着く論理的に正しいたった一つの真実！

とてもじゃないが、一人の人物の脳髓からにじみ出た物語とは信じがたい。思ってもみない形で、高校で今勉強していることが研究に利用されていく様は痛快です！退屈な勉強も使い方によっては、色々な形に化けるのだなと感じさせてくれることでしょう。

ミステリ好きにもおすすめできる

傑作長編 SF です！

【理科 後藤】

No
Image

としまかん
にあります

日本の川を旅する カヌー 一単独行(新潮文庫)

野田知佑・新潮社

高校生の私は心が躍り、生活の
地平線がひろがりました。

【教頭 船津】

